

第1回観光・交流部会における意見整理表

資料2

意見要旨	県での取組状況等	今後の進め方、考え方
<b>目指す姿1：「何度でも訪れたくなるあきた」の創出</b>		
<b>施策の方向性① 自立した稼ぐ観光エリアの形成</b>		
<p><b>◆デジタルマーケティングの運用に必要なDMPの構築</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルは使い勝手がいい言葉なので、人によってとらえ方も違ってくる。実施方法やそのメリット等について、観光事業者等の関係者に対し、具体的に伝えていくことが必要である。【吉澤部会長】</li> <li>デジタル観光プラットフォームについて、新しい技術がたくさん出てくるので、技術を客観的に評価できる人材と体制が重要である。【丑田委員】</li> <li>デジタルは日進月歩。新しいと思っていたら古くなっている。スピード感を持って行っていくことが必要である。【吉澤部会長】</li> </ul>	<p><b>【観光振興課】</b></p> <p>観光マーケティングデータに基づいた効果的・効率的な誘客施策を展開するため、データ分析の共通基盤となる「秋田県観光データマネジメントプラットフォーム（秋田県観光DMP）」構築に向けて、実証事業の地域関係者と調整を行っている。 DX技術を客観的に評価できる専門人材である秋田県DX推進アドバイザー（プロフェッショナル観光）と月4回程度ウェブ会議を行い、事業の方向性の助言や、新しい技術について情報提供を受けている。</p>	<p>秋田県観光DMPでは、ターゲット層や課題の明確化により、本県に関心のある観光客に合わせた商品・サービスの開発のほか、競合地域分析やスタッフの配置、仕入れの最適化が期待できることから、それらのメリットを説明し、事業者等の協力を得ることとしている。 新しい技術を客観的に評価・選択する場合は、システム開発・運営・管理を担う委託事業者や秋田県DX推進アドバイザーなどの専門人材と協議する。 なお、秋田県観光DMPでは、システム構築後も、新しいデータ収集や分析の技術・手法と連携できるような開発様式を検討している。</p>
<p><b>◆DMOを中心とした地域の特性を生かした観光振興</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光協会がDMOになるケースは多いが、DMOへの移行は観光振興を行っていく上でのひとつの手段である。地域でDMOの必要性をよく議論した方がよい。【吉澤部会長】</li> </ul>	<p><b>【観光振興課】</b></p> <p>DMOは、地域にとって観光振興が重要であるとの認識の下、関係者間との合意形成により、登録に至るものと認識している。 平成27年度にDMO登録制度がスタートして以降、県内外のDMOの先進事例等を紹介する観光人材育成研修を実施しているほか、令和3年度からは、県内DMOを参集した意見交換会を実施し、DMOによる観光振興の促進に努めている。</p>	<p>変化する旅行ニーズに対応していくためには、地域の枠を超えた事業連携や情報共有が重要であることから、引き続き、研修会や意見交換会を実施など、DMOを中心とした観光振興を進めていく。 今後もDMOの形成を進めるため、新規に設立を検討している地域や関係者に対して、県内外の事例を参考に、必要な助言を行うとともに、観光庁の補助事業などの情報提供を速やかに行い、地域の観光振興にとって効果的な組織が形成されるようサポートしてまいりたい。</p>
<b>施策の方向性② ターゲットの的確な把握と効果的な誘客プロモーションの展開</b>		
<p><b>◆あきたならではの魅力を組み合わせた発信力の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>秋田は素材は良いものが多い。素材+料理の見せ方など、一つのことを発信するのではなく、発信力を倍にするような考え方が必要である。【齋藤委員】</li> <li>秋田美人、あきたこまち、なまはげ、秋田犬、バラバラにPRしている印象。様々な事項を組み合わせる効果的に発信する取組が必要である。【吉澤部会長】</li> <li>秋田美人は、他県にはないアピールポイントなので、PRポイントに利用すべきだと思う。【佐々木委員】</li> <li>今後の観光や食の振興において女性ターゲットは重要であり、無視することはできない。【佐々木委員】</li> </ul>	<p><b>【観光振興課】</b></p> <p>宿泊施設の魅力向上を図るため、新たに、セミナーによる県産食材の特徴・活用・見せ方・仕入れ等を学ぶ機会を提供するとともに、専門家の派遣による個別支援を通じ、県産食材の活用・提供方法・おもてなし等の磨き上げのほか、宿泊プランの造成等に向けた支援も行うこととしている。 この他、公式観光サイト「アキタファン」では、食や文化などの素材の魅力を観光の観点から取り上げており、サイト内の「プランニューアキタ」では、新たな秋田の魅力をさまざまな切り口で紹介している。</p>	<p>宿泊プランの造成支援での成果や、「アキタファン」などから得られたアクセスデータなどの情報については、しっかりと調査分析を行った上で、今後の施策展開に活用してまいりたい。 また、本県の持つ素材の組み合わせによる、さらなる魅力向上については、今後とも様々な角度から調査研究してまいりたい。</p>
<b>施策の方向性③ 時代に変化を捉えた秋田ならではのツーリズムの推進</b>		
<p><b>◆地域の特性を生かした滞在型・体験型観光の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光振興ビジョンに記載している地域別プロジェクトは、大事な取組であるので、本庁とも連携して取り組んで欲しい。【丑田委員】</li> </ul>	<p><b>【観光戦略課】</b></p> <p>地域別プロジェクトは、地域振興局毎に、地域の観光資源を踏まえた「コンテンツづくり」や「受入態勢の整備」に係るものであり、観光地の魅力向上を図る上で重要な取組であると考えている。 プロジェクトの推進に当たっては、地域振興局・市町村・観光事業者が主体的に取り組んでいるが、大館能代空港を軸とした白神山地などの県北の世界遺産への誘客促進や教育旅行の誘致など、本庁でも予算措置をしながら、連携して取り組んでいる。</p>	<p>県観光振興ビジョンでは、毎年、民間有識者で構成する会議を開催し、委員からの意見を踏まえ各種施策を推進することとしている。 地域別プロジェクトにおいても、前年度の取組状況を検証するとともに、次年度以降の取組に当たっては、委員からの御意見・御提案も参考に、引き続き、プロジェクトの実現に向けて、本庁と地域が連携して取り組んでまいりたい。</p>

意見要旨	県での取組状況等	今後の進め方、考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>非日常的な感覚を味わえるという視点で、不便さを「売り」としてPRすることも出来ると思う。【齋藤委員】</li> <li>「何度でも訪れたくなる秋田」の創出は重要である。観光客という立場を越えて、地元の人とのつながりを持つことや地域の行事等へ参加することを通じて、2回目以降も訪問したくなる仕掛けをつくっていく。【丑田委員】</li> <li>教育旅行を契機に、親が子どもを連れて毎年来たいと思ってもらうことなど、観光を軸にしながら、関係人口の拡大につなげていく視点を持つべきである。【丑田委員】</li> </ul>	<p>世の中の価値観の変化に合わせたツーリズムを「新しい旅」及び「新しい旅行スタイル」と定義づけ、自然・アクティビティ・夜・朝等の体験をメインとした新たなコンテンツ開発に取り組む事業者に対し支援を行っている。【観光振興課】</p> <p>教育旅行向けコンテンツを紹介するセールスシートを作成し、札幌圏、関東圏等の学校、旅行エージェントに向けた訪問・商談、及び学校関係者の招聘を行っている。【観光振興課】</p>	<p>新たな総合パンフレット「ブランニューアキタ」や、公式観光サイト「アキタファン」の充実を図りながら、引き続き、「新しい旅」及び「新しい旅行スタイル」のコンテンツ開発に対し支援するなど、食や文化などの地域の特性と合わせた滞在型・体験型観光を目的とした誘客を図ってまいりたい。【観光振興課】</p> <p>教育旅行が増加傾向にある関東圏等でのニーズを踏まえ、県内の受入施設におけるコンテンツのブラッシュアップに取り組み、事前事後学習で一貫した学習効果を示すことができるプログラムを作成することとしている。</p> <p>本県への理解を深める契機とし、関係人口の拡大につながるよう取り組んでまいりたい。【観光振興課】</p>
<p><b>施策の方向性④ 旅行者の多様なニーズに応じた受入態勢の整備</b></p>		
<p><b>◆女性をターゲットとした宿泊施設のサービス向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>隣県では女性をターゲットとしたサービスが充実。人気のある旅館をモデルに、サービス・ソフト面を分析し、宿泊施設等への情報提供を行うべきである。【齋藤委員】</li> </ul>	<p>【観光振興課】</p> <p>令和3年度から県に出向している若手客室乗務員が宿泊施設を訪問し、「客室乗務員視点」「宿泊客視点」からモニター及び改善提案を行っている。</p>	<p>令和3年度に宿泊施設からの要望が多かった「体験メニューやアクティビティ」、「ホームページやSNS等の情報発信」を令和4年度のモニター項目に追加し、より充実させた形で実施する。</p> <p>より多くの施設にモニター結果を提供することで、宿泊施設等への情報共有を図り、宿の魅力向上につなげてまいりたい。</p>
<p><b>◆デジタル技術を活用した二次アクセスの整備による旅行者の利便性向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>AIが快適なルートを選定しながら、利用者が最短ルートで目的地まで行くことができるというサービスを提供している会社もある。【丑田委員】（再掲）</li> </ul>	<p>【観光振興課】</p> <p>公式観光サイト「アキタファン」に、ユーザーが出発地や嗜好等の条件を入力するとAIが最適なモデルコースを作成する機能がある。</p> <p>また、二次アクセスの整備を課題としている観光エリアと、デジタル技術で課題解決を図るノウハウを持つ企業とのマッチングを行い、実証実験を行いながら、その解決を図る事業を実施している。</p>	<p>「アキタファン」のモデルコース作成機能について、ユーザーが入力した条件の分析を進めることでAIの精度向上を図り、よりユーザーが求めるコースが提案できるよう、充実を図っていく。</p> <p>また、デジタル技術を活用した二次アクセスの整備については、実証事業を通じて蓄積したノウハウを、他の観光エリアにも展開してまいりたい。</p>
<p><b>施策の方向性⑤ 戦略的なインバウンド誘客の推進</b></p>		
<p><b>◆インバウンドの再始動に向けた戦略の再構築</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>インバウンドはこれまでの入国規制等への反動で増えると思うが、その対応として、移動・予約・体験等のデジタル化など、受入態勢の整備を先行して取り組んでいくことが必要である。【丑田委員】</li> <li>インバウンドのターゲットの見直しは必要。秋田が選ばれるように、という視点が大事。先手と準備が重要である。【吉澤部会長】</li> </ul>	<p>【観光振興課】</p> <p>コロナ禍においては、「オンラインツアー」のようなデジタル活用が進みつつあり、今後はビジネスモデルを変革するDXの取組を本格化させる必要があると考えている。</p> <p>一方、本県の観光産業は、宿泊や小売り、飲食といった中小・零細のサービス事業者が多く、デジタルを活用したサービス提供は他の産業に比べて遅れていることから、多言語システムによる情報発信や、バーチャルオンラインツアーに係る事例紹介など、「観光DX」を活用した事業者向けセミナーを開催することとしている。</p> <p>コロナ前は、台湾や中国などのアジア諸国からの観光客がインバウンドを牽引していたが、ゼロ・コロナを目指すアジア諸国からの観光客の復活は遅れるとの見通しもある。</p> <p>加えて、インバウンドは政治・経済情勢などの影響を受けるほか、市場ごとに長期休暇の時期や季節需要も異なるため、本県でも従来のアジアを重点的にターゲットとしてきたインバウンド戦略を見直す必要がある。</p>	<p>秋田県DX推進計画（令和4年度～7年度）に基づき、デジタル技術を活用した観光施策の推進に取り組むこととしており、観光におけるデジタルマーケティングの推進や、デジタル技術を活用した観光エリアの収益性向上への支援等に取り組んでまいりたい。</p> <p>これまで、台湾、中国・香港、韓国、タイを重点市場と位置づけ、インバウンド施策に取り組んできており、引き続き、台湾を中心に、アフターコロナにおける欧州市場に対しても誘客に向けPRをしていくこととしている。</p> <p>今後とも、デジタルデータの分析などを基に、秋田に強い関心を持つ訪日リピーター層にターゲットを絞り、その特性に応じた最適な手法により観光情報を提供するなど、効果的な誘客を行ってまいりたい。</p>

意見要旨	県での取組状況等	今後の進め方、考え方
<p><b>◆クルーズ船を活用した県内への周遊促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>旅行エージェントだけではなく、個人の観光客からニーズ等を聞くことによって、誘客に向けたキーワードが増え、クルーズ船受入のためのサービスを向上させることができる。【齋藤委員】</li> <li>単純に観光地を見せるのではなく、県内で既に人気の大手では出来ないような地域密着型のパッケージツアーを造成したものをPRして見せ、エージェントに魅力あるコンテンツを見せる必要がある。【齋藤委員】</li> <li>エージェントにアプローチすることはもとより、エージェントのツアーに参加しない個人客にもニーズ収集のためのアンケートを取るなど、アプローチをして欲しい。【齋藤委員】</li> <li>個人客のアンケート調査結果については、関係部署等と共有を図るほか、今後の施策に活用してほしい。【吉澤部会長】</li> </ul>	<p><b>【港湾空港課】 【観光振興課】</b></p> <p>クルーズ船寄港時に、観光案内ブースにおいて秋田への旅行等について個人からアンケート調査（日本語、英語）を実施しているほか、職員が旅行先などについて乗客への聞き取りを行っている。</p> <p>船社等招聘事業などを実施し、訪問先の自治体からも参加してもらいながら、新たなコンテンツを紹介するなどの取組を行っている。</p> <p>クルーズ船寄港時に、観光案内ブースにおいて秋田への旅行等について個人からアンケート調査（日本語、英語）を実施しているほか、職員が旅行先などについて乗客への聞き取りを行っている。</p> <p>「あきたクルーズ振興協議会」の会員に対し、適宜、共有している。</p>	<p>クルーズ船寄港時におけるアンケート調査を引き続き実施し、乗客のニーズの把握に努めていく。 船社への聞き取りやアンケート調査等を実施し、ツアー参加者・フリー客ともに、船毎の特性に応じた乗客のニーズ把握に努めてまいりたい。</p> <p>「あきたクルーズ振興協議会」の会員となっている自治体等のほか、観光協会や地域DMO等と連携しながら、船社招聘等の機会を通じて秋田の魅力を伝えられるコンテンツを積極的にPRしてまいりたい。</p> <p>船社への聞き取りやアンケート調査等を実施し、ツアー参加者・フリー客ともに、船毎の特性に応じた乗客のニーズ把握に努めてまいりたい。</p> <p>引き続き、「あきたクルーズ振興協議会」の会員に周知するとともに、会員を通じて事業者等への周知してまいりたい。</p>

**目指す姿2：「美酒・美食のあきた」の創造**

**施策の方向性① 消費者ニーズを捉えたオリジナル商品の開発と秋田の「食」のブランド化**

<p><b>◆中長期的な視点による「あきた」の食文化の形成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光エリア内で、観光と食の分野が連携し、中長期的な視点で、コンテンツや食文化をどう作っていくかが必要である。【丑田委員】</li> <li>食に携わる次世代の若者を育てていくような教育分野での施策のほか、世界や東京において第一線で活躍された方が秋田へUIターンしたくなる環境づくりなど、食と観光の連携が必要と思う。【丑田委員】</li> </ul>	<p><b>【食のあきた推進課】 【観光振興課】</b></p> <p>宿泊施設の魅力向上を図るため、新たに、セミナーによる県産食材の特徴・活用・見せ方・仕入れ等を学ぶ機会を提供するとともに、専門家の派遣による個別支援を通じ、県産食材活用・提供方法・おもてなし等の磨き上げのほか、宿泊プランの造成等に向けた支援も行うこととしている。【観光振興課】</p> <p>食品製造事業者を中心としたグループ（異業種も含む）が、アドバイザー等と協働する取組等を推進する「食品事業者等コラボレーション事業」や、食品事業マネジメント力講座や異業種交流会を行う「食品産業人材育成事業」を実施している。 【食のあきた推進課】</p>	<p>宿泊プランの造成支援での成果については、しっかりと調査分析を行った上で、今後の施策に活用するほか、この秋にも県を挙げた食のキャンペーンにおいて活かしてまいりたい。 【観光振興課】</p> <p>今後とも、食品産業分野における人材の育成や異業種との連携が図られるよう、適宜、UIターンした方などの意見も取り入れながら、若手経営者に向けた講座やネットワークの取組を進めてまいりたい。【食のあきた推進課】</p>
---	--	--

**施策の方向性② 食品製造業の振興**

なし	<食品事業者基盤強化事業>	
----	---------------	--

意見要旨	県での取組状況等	今後の進め方、考え方
<b>施策の方向性③ 多様な流通チャネルを活用した県産食品の販売の促進</b>		
<p>◆イベントや話題性など、機会を捉えた県産食品の戦略的なPRの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東北風土マラソンは、東北の名物を走りながら食べる企画で、食材と日本酒を世界に向けて発信するイベントとして、効果的にPRしている。参考として欲しい。【齋藤委員】</li> </ul>	<p>【食のあきた推進課】 【スポーツ振興課】</p> <p>県で助成している県内のマラソン大会やスポーツイベントにおいて、給水ポイント（エイドステーション）等で地域の食材等の提供が行われている事例があり、県内外に発信する地域資源として「食」が活用されている。</p>	<p>今後さらに、県産食品の戦略的な販売を促進するため、「食」とスポーツ、文化、観光等の組み合わせや、各種イベント等の話題性を活用しながら、効果的なPRを行ってまいりたい。</p>
<b>施策の方向性④ 秋田の「食」の魅力の発信と誘客への活用</b>		
<p>◆本県の優位性に着目した発酵ツーリズムの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発酵を売りにしている県は多い。同じようにPRをした場合、移動にかかる経費と時間で考えると、首都圏の観光客は近場を選ぶ。【齋藤委員】</li> <li>秋田を選んでもらえるような差別化。生産者の思いは違うので、商品づくりにストーリーを持たせ、デジタルで消費者と生産者を繋ぐなどの取組もある。【齋藤委員】</li> <li>秋田を選んでもらえるような情報発信が不足。同じ環境で同じ体験ができるなら、近くが選ばれるのは消費者の基本的な傾向。【吉澤部会長】</li> <li>発酵についてもストーリー性を持って取り組むことが必要であり、行政がサポートして欲しい。【佐々木委員】</li> </ul>	<p>【食のあきた推進課】</p> <p>デジタルを活用した取組としては、令和3年度に「あきた発酵ツーリズムオンラインイベント」を開催したほか、YouTubeチャンネル、及びFacebookページ「本日あきた発酵中。」で情報発信をしている。</p> <p>オンラインイベントでは、NHK番組「プロフェッショナル仕事の流儀」にも出演した株式会社齋彌酒造店の”伝説の杜氏”高橋藤一氏のこだわりの酒造りを紹介したほか、横手市の羽場こうじ店における「母から子へ受け継がれる米麹づくり」を紹介し、秋田の発酵食文化に携わる生産者の思いをイベント参加者に伝えたところである。</p> <p>オンラインイベントには県外在住者を中心に53名が参加し、95%以上の参加者に好評だったほか、イベントの様子を収録したYouTube動画は、合計約2,000再生されている。</p>	<p>発酵ツーリズムの取組は、新潟県や福島県でも同様の動きが始まっていると認識しており、他県の取組との差別化が必要である。</p> <p>今後は、首都圏に近い自治体と競争していくために、本県の発酵食文化と他の観光コンテンツを組み合わせた本県独自の発酵ツーリズムを構築し、情報発信・ツアー造成等を進めてまいりたい。</p> <p>（例：発酵食文化とそれを育んだ秋田の雪、横手市増田地区の内蔵文化と発酵食文化、県内菓子メーカーが本県の発酵食品を使って作った「発酵スイーツ」のPR等）</p>
<b>目指す姿3：文化芸術の力による魅力ある地域の創生</b>		
<b>施策の方向性① あきた芸術劇場を核とした文化芸術の発信とにぎわいづくり</b>		
<p>◆「ミルハス」を核とした「にぎわい」の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ミルハスでは、催し物を開催するだけではなく、県民が気軽に遊びに来られる環境づくりが必要ではないか。【佐々木委員】</li> <li>地元の人が集ってこそのにぎわいであり、地域の文化を生かすことが大切であると考える。【吉澤部会長】</li> </ul>	<p>【文化振興課】</p> <p>令和4年6月6日から練習室等の貸出とともに、県民や観光客が気軽に立ち寄り、景色を楽しめるラウンジ的な空間として、一般利用を開始している。</p>	<p>エントランスロビーでのミニコンサートや、展示スペース、ホワイエを活用した展覧会等を切れ目なく開催するなど、県民がいつでもミルハスを訪れたいような企画を立案・実施してまいりたい。</p>
<b>施策の方向性② 文化芸術活動の促進と次代を担う人材の確保・育成</b>		
<p>◆「ミルハス」を活用した若手アーティストの活躍支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>秋田公立美大の存在は貴重である。卒業生が地域に残りアーティストとして活躍できる環境を整えること。【丑田委員】</li> <li>ミルハスにおいてもアーティストが活躍できる場を作るなど、若いクリエイターが秋田に来てくれるようなプロモーションが必要ではないか。【丑田委員】</li> </ul>	<p>【文化振興課】</p> <p>ミルハス東西通路に、アート作品を展示できるスペースを設けているほか、今年度、音楽等の実演芸術における県内のプロアーティストの活躍の機会を創出することを目的に、ミルハスを活用したステージイベント等を開催し、県内における文化活動の振興を図ることとしている。</p> <p>また、平成23年度以降、県内の若手アーティストの育成支援としてアーツアーツサポートプログラム等の取組を行っており、毎年、公立美術大の教員や学生らが参加し、作品を発表している。</p>	<p>ミルハスの展示スペースやホワイエ等を公立美大生等県内アーティストの作品発表の場として活用するほか、隣接する秋田市文化創造館と連携してアーティストの活動支援につながる企画を立案・実施してまいりたい。</p> <p>また、音楽等の県内在住アーティストに対しては、イベント開催のほか、ミルハスのウェブサイト内に専用のページを設け、プロフィール等を紹介するなど、アーティスト活動を後押しする情報を発信してまいりたい。</p>

意見要旨	県での取組状況等	今後の進め方、考え方
<p>◆伝統芸能の継承と魅力の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特に県外在住者に秋田の魅力をアピールするには、特色ある文化や豊かな自然など「秋田ならではの」のものを守ることが大事ではないか。たとえば、伝統芸能を守るための取り組みは重要ではないか。【NHK秋田放送局長 石井委員】</li> </ul>	<p>【文化振興課】</p> <p>平成28年度から、秋田の伝統芸能等が一堂に会する「新・秋田の行事」を毎年開催し、秋田ならではの特色ある文化を通じて、県内外に秋田の魅力をアピールしているほか、令和3年度からは、県内外の若い世代の観光客を対象に、伝統芸能の歴史的背景を知るとともに所作等を体験するプログラムを作成し、活用に向けた普及啓発を行っている。</p>	<p>本県は「民俗芸能の宝庫」と言われるなど、県内には地域に根ざした伝統芸能が数多く存在しており、こうした秋田ならではの文化を守り、活動を継承・維持していくため、引き続き、県民の理解と県内外の関心度を高めていく取組を進めていくほか、文化団体が意欲的に活動できるよう、各々のニーズに即したきめ細かな支援を行ってまいりたい。</p>
<p>施策の方向性③ 文化芸術を通じた交流人口・関係人口の拡大</p>		
<p>なし</p>	<p>&lt;文化芸術がつなぐ交流拡大事業、「あきたの文化」魅力再発見事業、劇団公演を活用した交流人口拡大促進事業&gt;</p>	
<p>目指す姿4：活気あふれる「スポーツ立県あきた」の実現</p>		
<p>施策の方向性① ライフステージに応じた多様なスポーツ活動の促進</p>		
<p>なし</p>	<p>&lt;生涯を通じた豊かなスポーツライフづくり推進事業、体づくり医科学支援事業&gt;</p>	
<p>施策の方向性② スポーツを通じた地域づくりと交流人口・関係人口の拡大</p>		
<p>◆トップスポーツチームを活用した地域の連携・協働の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県内にプロスポーツチームがあるバスケット、サッカーなどのスポーツは人を引きつけるので、行政がしっかりとサポートして欲しい。【佐々木委員】</li> </ul>	<p>【スポーツ振興課】</p> <p>プロスポーツ・クラブスポーツのチームは、競技力の向上とスポーツ参画人口の下支えはもとより、本県の情報発信、にぎわいの創出、県民の一体感の醸成といった効果があることから、バスケットボールの「秋田ノーザンハピネッツ」、サッカーの「ブラウブリッツ秋田」及びラグビーの「秋田ノーザンブレッツ」の3クラブを対象に、ユニフォーム等のスポンサーとして補助することで、本県のPRに活用するとともにチーム運営の支援も行っている。</p>	<p>引き続き、プロスポーツ・クラブスポーツに対する支援を実施し、スポーツの振興及びスポーツによる地域活性化を図ってまいりたい。</p>
<p>施策の方向性③ 全国・世界で活躍できるアスリートの発掘と育成・強化</p>		
<p>◆自主性・主体性を育むことを通じたジュニア層の育成・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもに対して、もっとプロフェッショナルな方が指導する環境を整えることが必要と考える。【佐々木委員】</li> <li>子どもの数が減少している中、単に試合に勝てばいいという考えではなく、頑張っている子どもたちの能力を伸ばす取組が必要である。【佐々木委員】</li> </ul>	<p>【スポーツ振興課】</p> <p>ジュニア層の強化・育成にあたっては、専門的な指導者の確保と指導者の資質向上が必要であることから、令和3年度より「チームAKITA強化事業」等において（公財）日本スポーツ協会公認指導者の資格取得の支援を行っているほか、競技団体の指導者を対象とした研修を実施している。</p> <p>小中学生を対象とした運動能力測定会により、児童生徒が運動適性を知る機会や様々な競技種目を体験できる場を提供している。また、オーディションによるタレント発掘や、中学生の強化選手指定などにより強化・育成を図っている。</p>	<p>引き続き、指導者の育成と資質向上を図り、長期的な視点に立った計画的な指導が行われるよう取り組んでまいりたい。</p> <p>今後とも、質の高い指導と充実した練習環境の提供による選手強化を図るとともに、子どもたちの能力を発掘・育成する取組を推進してまいりたい。</p>
<p>施策の方向性④ スポーツ活動を支える人材の育成と環境の整備</p>		
<p>なし</p>	<p>&lt;県有体育施設整備・改修事業&gt;</p>	

意見要旨	県での取組状況等	今後の進め方、考え方
<b>目指す姿5：国内外との交流と住民の暮らしを支える交通ネットワークの構築</b>		
<b>施策の方向性① 幹線鉄道の整備の促進とフェリー航路の維持・拡充</b>		
なし	<奥羽・羽越新幹線整備促進事業、秋田新幹線新仙岩トンネル整備促進事業、フェリー航路活性化・モーダルシフト推進事業>	
<b>施策の方向性② 航空路線の維持・拡充</b>		
<p>◆世界文化遺産「縄文遺跡群」など、観光と連携した大館能代空港の利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東京から来ると土地勘がないので、どの時間にどう回ったらいいか分からない。地元で丁寧に教える必要がある。各観光ポイントをこの順番で回ると、このくらいの時間がかかるなど、観光客向けに発信すべき。【吉澤部会長】</li> <li>大館能代空港は、使い勝手がよくない時間帯に発着時間が設定されており、それで使う人も少ない。【佐々木委員】</li> </ul>	<p>【交通政策課】</p> <p>大館能代空港圏域を初めて訪れる方々に縄文遺跡群をはじめとした地域の魅力が伝わるよう、多様な旅行商品の造成支援に取り組んでいる。また、周遊観光の一助となるよう、大館能代空港利用促進協議会のホームページにおいてモデルコース等を掲載している。</p> <p>大館能代空港は、従来は朝・夕の二往復運航であったが、令和2年5月に羽田空港発着枠の配分を受け、現在は朝・昼・夕の三往復運航ダイヤが実現している。</p> <p>GW期間は三往復運航が実施されたものの、5/9以降は週末のみ、三往復運航となっていたが、7月からの毎日三往復運航が決定している。県では、地元自治体等と連携し、三往復運航の継続・定着化に取り組んでおり、利用者へのキャッシュバックキャンペーンの実施等による利用促進に努めている。</p>	<p>引き続き、観光客の方々が欲しい情報が得られるよう、情報発信や支援事業の周知等に努めるとともに、DMOなど観光事業者との連携により、大館能代空港の観光利用の促進に努めてまいりたい。</p> <p>引き続き、三往復運航が定着し、利用者の利便性が維持されるよう、圏域の関係団体が一丸となって、様々な施策に取り組み、大館能代空港の利用促進が図られるよう努めてまいりたい。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>平日は仕事関係の利用者が多いが、伊勢堂岱遺跡の観光客は、大館能代空港を使う方が多い。遺跡は観光の目玉なので、空港利用者のターゲットを絞ることや補助金制度の改善などを組み合わせて、利用者の増加に繋げて欲しい。【佐々木委員】</li> <li>シャワー効果という言葉がある。大館能代空港、青森から入った観光客が県北で快適に過ごせるか、どう周遊に繋げていくかを考えていく必要がある。【吉澤部会長】</li> </ul>	<p>伊勢堂岱遺跡を含む世界遺産等の多彩な観光資源を生かしながら、旅行商品の造成支援や航空会社等と連携したキャンペーンの実施などにより需要の創出に取り組んでいる。</p> <p>また、世界遺産の観光活用により空港利用者の増加を図るため、今年度から県・市町村の観光・交通の担当やDMO等を交えた意見交換会を実施している。</p> <p>大館能代空港利用者が周遊観光の拠点となるよう、大館能代空港利用促進協議会を中心に、リムジンバスや乗合タクシー等の充実による二次アクセスの充実強化に取り組んでいる。</p> <p>また、旅行商品の造成支援において、秋田内陸縦貫鉄道を利用した場合の特別上乗せを行うなど、県北の周遊観光が楽しめる魅力的な旅行商品が造成されるよう取り組んでいる。</p>	<p>引き続き、縄文遺跡群などの圏域の豊富な資源を生かしながら、利用促進に努めるほか、意見交換会において、関係者間の情報共有、現状分析等を実施し、適切に施策が実施されるよう検討してまいりたい。</p> <p>引き続き、大館能代空港は県北の観光地へアクセスしやすいこと等を周知していくとともに、多様な旅行商品が造成され、利用促進が図られるよう取り組んでまいりたい。</p>
<b>施策の方向性③ 利便性の高い地域公共交通網の形成</b>		
<p>◆地域と一体となった新たな移動手段の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>三種町では自分たちでバスを運営しているが、これが理想である。能代では、声を上げづらく、行政も強い働きかけが無い。【佐々木委員】</li> </ul>	<p>【交通政策課】</p> <p>三種町が住民共助団体等に委託して運行している「ふれあいバス」については、国土交通大臣の登録を受けて市町村等が自家用車による有償運送を行う「自家用有償旅客運送制度」を活用しているほか、国及び県が運行経費に対して補助を行っている。</p>	<p>自家用有償旅客運送を始めとした新たな輸送サービスにより交通空白地域等の問題を解決しようとする取組については、各市町村に設置されている「地域公共交通会議」で議論されることになっており、県も委員等の立場で参画していることから、三種町の先進的・モデル的な取組を他市町村にも伝えながら、各地域での議論を深めてまいりたい。</p>

意見要旨	県での取組状況等	今後の進め方、考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通は限界があり、全国的にも縮小している。一方、自助・共助交通という考え方の下、全国では買い物支援をセットで行っている事例もある。m o b i のサービスを参考として欲しい。【丑田委員】</li> <li>m o b i は、スポ少の送り迎えにも活用できると思う。学校の統廃合で、子ども同士でも遊びに行きづらい環境にあり、交通手段の有無の影響は大きい。子ども・高齢者が、交通手段があることで、歩いて楽しめる環境が重要である。【丑田委員】（再掲）</li> </ul>	<p>道路運送法上の許可・登録を要しない、地域の助け合いで実施される移動サービスについては、県内での自発的な取組は限られているものの、県では令和3年度に由利本荘市内の互助輸送の取組に対し、ネット予約の仕組み構築等への支援を行った。</p> <p>県では、事業者が運行するバスのほかに、市町村が運行するコミュニティバス等への運行補助等により、地域の実情に応じた公共交通ネットワークの維持・確保に向けた取組を支援しているほか、m o b i のような新しい乗合交通サービスについて、試験的な導入経費の一部を支援することも可能である。</p>	<p>自助・共助交通については、各市町村が地域の実情に応じた交通サービスの提供を検討する中で考えるべき課題ではあるが、県としても各市町村の地域公共交通会議等において、投げかけながら議論が進むようにしてまいりたい。また、WILLER社等が提供する定額制の車の乗合サービス「m o b i (モビ)」については、現在、大館市が今夏の実証試験に向けて準備を進めているところであり、成果や課題等を他市町村へも提供し、効率的な運行に向けた取組を促してまいりたい。</p> <p>m o b i については、大館市が予定している実証試験の結果を踏まえ、他市町村へもデジタル技術を活用した効率的な運行に向けた取組を促してまいりたい。</p>
<b>施策の方向性④ 第三セクター鉄道の持続的な運行と観光利用の促進</b>		
なし	<鉄道軌道輸送対策事業、地方鉄道運営費補助事業、第三セクター鉄道利用促進事業>	
<b>施策の方向性⑤ 高速道路等の整備</b>		
なし	<交流の拡大や経済の活性化・グリーン物流等を支える高速道路網の整備、高速道路を補完して広域交流を支える幹線道路網の整備、物流・交流拠点へのアクセス道路の整備>	